

三河のつぶやき

あっと気が付いたら年末でした。年末年始を感じるのはカレンダーやテレビではなく、インフルエンザ、胃腸炎(のろ)の流行り具合なのは、感染症科医だからでしょうか。今年も皆さまに大変御世話になりました。来年もまずはこの地域の医療、特に救急対応 受け入れについて、微力ながら地域医療連携室としても助力していければと考えています。皆さまにおかれましても、良い年末・年始を送ることができるよう祈念致します。



地域医療連携室
室長 三河 貴裕

マイ・ム ラジオ体操

何をやっても長続きしない私が今、はまっているのは「ラジオ体操」健康維持のためにはじめました。第1・第2...音楽に合わせて首を思い出しながら楽しく(^.^)...意外に体で覚えているんですね!結構できますよ!
汗がジワジワでてきて体はボカボカ(^.^)体を動かすのが辛くなる冬にはもってこいです。年と体を動かして汗をかくという事を忘れていたのでもち気持ちは良いです。夜はぐっすり眠れて、朝の目覚めがよいですね。時間にして4,5分!時間がない私でもできる唯一の運動です。

実はラジオ体操以外にもう一つやっています。つま先立ちとかかかと立ちを交互に行いふくらはぎの伸縮運動もしています。椅子にばかりながら1,2分くらい行うと足の疲れがとれてスッキリこの運動も私のお気に入りです。毎日やらないと何となく物足りない!!」と思い欠かさずやっています。みなさんも小学生時代を思い出しながら一緒にやってみませんか?

体操っこ

開催予定の勉強会のご案内

1. 褥瘡看護勉強会

1)日程 :H26/ 1/ 31 (金)

18:00~ 19:00

テーマ 褥瘡の病態について

2)日程 :H26/ 2/ 28 (金)

18:00~ 19:00

テーマ 褥瘡予防の技術 (体圧分散)

定員 :20名

会場 安房地域医療センター

講師 排泄ケア認定看護師 佐藤理子

2. がんのリハビリテーション講演会

演題: 癌用症候群のリハビリテーション

~急性期リハビリテーションの重要性~

日程 :H26/ 2/ 12 (水) 18:00~ 19:00

詳細はプログラムを参照ください。

3. ELNEC - じば

エンドオブ・ライフケアを提供する看護師のための包括的な教育プログラムです。

日程 :H26/ 2/ 22 (土)・2/ 23 (日) - 2日間 -

両日とも9:00~。プログラムは先月送付済みです。

「第4回地域医療連携交流会に参加して」- 中原病院 薬剤室 古宮 三郎

今回、初めて、亀田病院様主催の地域医療連携交流会に参加させて頂きました。

大型台風の接近で悪天候にも関わらず、地域医療連携の重要性を地域の関係者の方々には常々持っておられる証左でしょうか、会場は入りきれない程で驚いた次第です。交流会に参加した、感想と今後の取り組み等を寄稿するのが本来ですが、入院患者様を御紹介頂いている一病院の薬剤室としてお願いが御座います。転院に当たっては事前に薬剤情報を頂いており、当院の主治医と処方箋の内容について協議し、必要な薬剤は確保することに致しております。

しかし、退院処方変更があった場合等、当院に採用されていない薬剤が処方される事も御座います。週末ですと薬剤の仕入れが間に合わない場合もあり、苦慮いたしております。週末の転院患者様だけでも結構ですので5日間位の持参薬を処方して頂けると大変ありがたいと思っております。

最後に、安房地区の一病院として少しでも地域の医療の支えとなるように努力致してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。

「地域医療連携について」- 中原病院 医療連携担当 座間 弘枝

地域医療連携交流会において、様々な医療機関 施設の方々とは直接顔を合わせ、話をする機会が得られたこと、とても有意義に感じております。あらためて、中原病院及び関連施設の地域における役割を確認するとともに、他医療機関との連携のあり方について考える機会を得ることができました。

日常の業務において、各医療機関の方々との電話や書面での情報交換の内容が、充実しているか。患者様、ご家族との面談が、それぞれの思いやニーズを把握し共感のもと対応できているか、常に意識するよう心掛けたいと思います。そして、その過程の中で、患者様、ご家族と関わる様々な職種の方々とは、直接顔を合わせ情報交換する機会を設けることが、特に重要と考えます。書面や面談から読み取れない、患者様の様子やご家族の抱える様々な問題など、多様な情報を得ることが、より適切な支援につながるということ。そして、その情報を院内各部署で共有し、連携を図ることにより、最も適切な医療・看護・介護の提供ができるよう、また地域における役割を果たすべく、日々、努力していきたいと考えます。

「地域医療連携のおかげです」- K棟11階病棟師長 三上 久美

私は現在K棟11階消化器内科メインの混合内科病棟に勤務しています。年のせいか昔を振り返ることが多くなりました。十数年前になりますが私は神経内科病棟へ移動になり、6年間勤務した時期がありました。当院は、急性期病院で患者様を受け入れるためには、円滑な退院促進が必要ですが、脳血管障害を突然発症し手足の麻痺や言語障害、意識障害、運動障害などの後遺症がある、また神経難病患者様は、徐々に機能障害が進行し、退院後は自宅での生活が送れなくなる患者様も多く、まずは何処へ退院するかが問題になりました。老健施設は胃チューブのままでは受け入れ困難で胃瘻造設をしてから、気切のある患者様を受け入れてくれるのは、長期療養型の極一部の病院のみで、何処もいつも満床で受け入れは数ヶ月先という現状でした。中には人工呼吸器使用し自宅で患者様を看ていきたいと希望するご家族もいました。自宅へ帰って事故が無いように、困らないようにとMSW、MEさんと協力し家族指導、入念に準備し退院にごきつ、その後の頼りは当院の訪問医療、看護のみという感じでした。ところが数年前、神経内科の在院平均日数を知り驚きました。「あれほど退院に向け苦勞していたのに、なぜこんなに短くなったのか?」リハビリ病院を開設したこともあると思います。また、以前は癌末期の患者様が「最後を自宅で過ごしたい」と希望しても、介護力や疼痛コントロール等の問題であきらめざるを得ないこともありましたが、近年は患者様、ご家族の希望があれば叶えられると実感しています。これらの最大の要因は、やはり当時では想像もできなかった「地域医療連携」の協力体制ができたおかげなのだろうと感謝しています。今後ともよろしく宜しくお願い致します。